

高校生に
伝えたい

特集

卒業生が語る 長崎大学での 学び

- Vol.2 -

この春、新たな世界へ飛び込んだ
10人の卒業生たち。

学問のみにとどまらない大学での学びを
どのように探究し、視野を広げたのでしょうか。

目標が定まらずもがいた日々や、成長に至るターニングポイントなど、
それぞれが卒業を目前にして語ったエピソードをご紹介します。

将来大学生になる高校生の皆さんが
実りある大学生活を送るために、
ヒントとなる言葉を見つけてみませんか。

Graduates talk
about
Nagasaki University



授業や研究を通じて知った 子どもたちの心理 学校を楽しい居場所にしたい

1、2年次にもっと勉強して
いればよかった！ 実習で
直面した反省をバネに採用
試験まで頑張り抜きました。



入学時の私 /

教育学部 卒業 金築朋美さん

この春、長崎県の小学校教員となり、新たな一歩を踏み出す金築朋美さん。教員になることを強く意識し始めたのは、3年次だったそうです。「心理学を学びたい、そして教員免許を取りたいという気持ちは最初からありましたが、3年次になって本格的な実習が始まると、自分自身の勉強不足を痛感しました。それからは漠然と受けていた大学の授業も、子どもたちをイメージしながら理解を深められる

ようになりました。でもなかなか先生になる踏ん切りはつかなかったんです。それはなぜですか？「周りには、ピアノ、歌、絵など、子どもたちをすぐに喜ばすことができる特技を持った人が多いのですが、私にはそれがなくて、ずっとコンプレックスを持っていたからです。私と同じ思いをしている子どもたちは必ずいる。伝えられる経験や言葉があるかもしれない。一人一人の特性をしっかりと見極めて、温かく包み込める先生になる

う。そう気持ちを切り替えて決意したのは、採用試験に向けた特別講義が始まるタイミングでした」。小学校教育コースの中でも、教育学と心理学に基づいた能力を形成する、子ども理解実践専攻（現在の「子ども理解系」）に在籍していたそうですね。「はい。子どもの気持ちや状態について深く学ぶ授業では、答えが一つではないケースも少なくありません。その都度悩んで先生や友人と議論を交わしました。卒論は子どもと養育者の関係について書きました。養育者との関係が良好でない子どもは愛着が薄く、自己肯定力が低い可能性があります。教員だからこそできる取り組みとして、私はまず子どもたちとたくさん話をして、たくさん遊んで信頼される先生になりたい。そういう先生に褒められることが、自分を認めることにもつながると思うからです」。最後に目標を教えてください。「学校は、子どもたちが多くの時間を過ごす場所です。楽しくて安心できる居場所をつくってあげたいです」。



子どもたちの心理を読み解き、寄り添える先生になりたい。これからも学びは続きます。

KANECHIKU Tomomi



医学部ラグビー部のマネジャーを務めた金築さん。選手にとってより良い環境を考える中で、広い視野を持てるようになりました。

教育学部HP



人と人、文化と文化をつなぐ 言語の力を実感 多様な英語教育の実践を目指して

得意なはずの英語で思いを
伝えられなかったもどかしさ。
海外経験を経て心の殻を破
ることができました。



入学時の私 /

多文化社会学部 卒業 山本 春さん

YAMAMOTO Haru



「英語だけは誰にも負けたくなかったので成績も良かった」と高校時代を振り返る山本春さん。得意分野を生かせる多文化社会学部で始まった学びは、順調な滑り出しだったと推測します。「いえ、特に話すことに関してはレベルの高い人たちがたくさんいるので、伝えたいことを伝えられないもどかしさに悩む日々でした。失敗してもいいから一歩踏み出してみよう、とにかく経験を積もう、そう思って参加したのが、外国人に日本語を教えるボランティアです。言語を教える過程で、人と人、文化と文化をつなぐ面白さを実感し、自分がやりたいことはこれだ！と答えを見つけた気がしました」。それからはどのように動き出したのですか？

「多文化社会学部では、高校の教員免許（英語）と日本語教員基礎資格を取得できます。その2つの取得を目指すため、時には休み返上で勉強に時間を費やしました。やると決めたら突き詰めないと納得がいかないタイプなので、勉強と並行してカンボジアにある日本語学校で海外インターシップも経験しました」。濃密な学生生活だったんですね。「はい。他にも、日本語で英語を教える場合と英語で英語を教える場合の違いを知りたいと思い、1年間休学してオーストラリアの言語学校に留学しました。母語が英語でない人向けに英語を教えるためのTESOLという資

納得のいく道を選んで追求した大学生活。そこで得た経験を私なりの英語教育に生かしていきたいです。



格を取ることが目的だったのですが、政治や宗教問題に関する配慮など、日本とは異なる視点から英語教育について学ぶことができて良かったです。日本の教員免許に加えて取得したさまざまな資格や、努力して身に付けた知識や経験を、今後どのように生かしていきたいですか？「卒業後は、高校の英語教員になります。英語を話したい、使いたいと思う生徒を増やすためのアプローチはもちろんですが、私が海外で出会った

人たちのように、自分の意見や個性を自由に表現できる生徒を育てていきたいとも思っています」。



カンボジアにある日本語学校でのインターシップで、日本文化紹介の一環としてそめん流しを行った時の様子。

大変だった実習の日々も 友人たちと励まし合いながら 専門医療を学ぶために大学院へ

母の出産の時、付きっきりでケアし、活躍する助産師さんがかっこよくて、進路を助産師に決めました。



入学時の私 /

医学部保健学科 卒業 春田優菜さん

看

護学専攻の春田優菜さんは助産師を目指しています。今年の看護師国家試験は、新型コロナの感染拡大を受けて直前に会場が福岡から長崎に変更され、大慌てだったそうです。とはいえ、試験後「結果はまだですが、恐らく大丈夫だと思います」とにっこり。春田さんが進路を助産師に決めたと聞くと、「私が10歳の時に弟が生まれ、その出産に立ち会うことができました。助産

師さんが付きっきりで母の介助をしてくれたのですが、それがとってもかっこいい！ それまでは医師を夢見ていたのですが、患者さんとのコミュニケーションをより密にする助産師の仕事は、私の性格にも合っていると思いました」。そうして入った医学部保健学科、4年間の学びはどうでしたか？ 「医療の基礎知識をはじめ、新生児の扱い方やお母さんの体の変化などについても学ぶのですが、やはり何と

いっても大学病院での実習が一番大変かつ印象深いものでした。3年次の9月から2週間ずついろいろな科を回ります。母性という実習領域では、入院するお母さんに1週間付いて、外来の患者さん対応も1週間。大学病院なので、母子に問題やリスクがあるケースが多く、患者さんやデータなど診るべきことや一歩引いて観察すべきことが多く大変でした。朝早くから夕方まで病院にいて、帰宅後は記録に取り掛かり、睡眠時間が2、3時間なんてこともあり、友人と毎日「きついなあ」、「行くだけ行こう!」と励まし合っていました。それだけに、患者さんから「ありがとう」と言っていた時には救われる思いでした」。

医療を長崎大学で学ぶ意義はどのような点だと思いますか？ 「看護師の勉強は専門学校や短大などでもできますが、私にはちょっと短くて。長崎大学で4年間みっちり学ぶことで土台を積み上げられるし、将来はNICU(新生児集中治療室)などでも働いてみたいので、高度な専門医療を大学院で学ぶ道を選びました。しっかりしたエビデンスをもって患者さん向き合えるスペシャリストを目指します」。

実習を通して、お産だけでなくお母さんの心のケアも助産師の役割の一つであることを改めて実感しました。



HARUTA Yuna



看護学専攻の仲間たちと。「友人の中には保健師を目指す人も多くいます。長崎は離島が多いので、地域医療を支える専門分野の先生もいます。大学院(修士課程)に新しく保健師養成コースもできました」。



医学部 保健学科HP

前向きにやりたいことに 自分から挑戦することで 志を持った仲間と出会う

入学当初は当たり前だと思っていた学びの環境とプログラム。4年次頃に、あらためてその高い充実度に気付きました!



入学時の私 /

医学部医学科 卒業 大熊 怜さん

OKUMA Rei

医

学部医学科を卒業した大熊怜さんは、医学的な専門知識を生かしてグローバル社会での活躍を目指す国際枠で入学しました。「国際的な行政医療に携わる医師を育成するプログラムが魅力的で、地元の福岡から長崎大学に来ました。医学部には、かつてWHOで働いていた先生方がいたり、実践的な英語を学ぶ講義が充実していたり、恵まれた環境だと思います。印象的だったのは、1年次に参加した福島県での論文発表会や現地視察です。震災から5年という時期に直接足を運ぶ貴重な機会となりました。それがきっかけで、研究室に所属して学ぶ3年次のリサーチセミナーでは、ベラルーシ共和国の医科大学の研究室を選択しました」。

現地での活動内容を教えてください。「私が留学したのは、かつてチェルノブイリ原発事故で大きな影響を受けた街の大学です。そこで医学生を対象に、放射能や原発をどのように感じているかアンケート調査を実施し、今でも恐怖感が残る実態が垣間見えました。ただ、語学の部分では苦勞も多く、病院のシステムや制度も日本と大きく異なり、もっと知識と経験を身に付けたいと思うきっかけになりました」。

4年次からは病院での実習も開始。忙しい学生生活という印象です。「そうですね。サークルもソフトテニス部に所属して、勉強との両立に苦勞しましたが、西日本の医学部の大会でベ

3年次のリサーチセミナーは長崎大学ならではの。早い段階で海外の大学の研究室も選択できることはとても貴重です。



「医療現場で活躍できる実力をつけ

て、その後は大学院での研究も経験し、その先の大きな目標としてグローバルな医療への貢献を目指します」。



3年次の海外インターンで、ベラルーシ共和国の大学へ留学した大熊さん。日本と異なる医療システムや制度、環境を体感する中でモチベーションも高まりました。



医学部 医学科HP

専門分野にとらわれず チャレンジした取り組みが 夢に近づくプロセスに

大学は活動的な人がたくさんいる場所。興味を持ったら飛び込んでみよう! と考えるようになりました。



入学時の私 /

薬学部薬科学科 卒業 馬場大暉さん

「研究にとどまらず、開発した薬を世の中に送り出すところまで一貫して携わる研究者が目標」と話す馬場大暉さん。3年次後期で研究室配属になる以前から、いろいろな論文を読んで研究準備を整えていました。昨年開催された「第14回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス」では、学部学生ボスター賞を受賞したそうですね。

「はい。取り組んでみたいテーマに大学で出会うことができ、研究に没頭でき

る環境にも恵まれました。その結果、発表のチャンスももらい、評価にも結び付いたと思っています。テーマの発掘から成果に至るまで、一連のプロセスを経験できたことがとても印象的です」。

発表したミトコンドリアに関する研究とは、どのようなものなのでしょう。

「ミトコンドリアは、細胞の中で大変重要な役割を持つ器官として知られています。人間は一つ一つの細胞からできていて、健康な体を維持するためには細胞が正常な状態になればなりま

せん。今回の研究では、細胞がミトコンドリアの健康を維持するメカニズムの一つを明らかにしました」。

起業意欲にあふれる県内の学生を対象にした「長崎学生ビジネスプランコンテスト2020」に参加するなど、専門外の活動にも力を入れたのはなぜですか。

「STUDY FOR TWO(SFT)長崎大学支部というボランティア団体の活動で出会った友人の影響が大きいです。友人は起業家を目指すアクティブな人。僕自身、夢をかなえるためには起業という選択肢もあると思いました。その友人や工学部の学生と協力して、コロナ禍の影響で休校になった鹿児島県内の小中学生を対象に、ウイルスや新型コロナウイルス感染症について学べるインターネット講座を企画・運営したり、専門外の仲間とコミュニケーションを深めたりすることで、開ける道があることに気がきました」。

卒業後は大学院に進むそうですね。「大学院修了後も研究を継続し、自身の研究を通じて病気の治療薬の開発と供給を実現したいです。研究者と起業家の両立を視野に入れています」。



不要になった教科書などを販売し、その売上げを東南アジアの子どもの支援につなげるSFT。馬場さんも現地で活動しました。

子どもの頃に大病を患った経験が夢の原点。苦しみや不安を取り除く薬の開発を目指して、日夜研究に励んでいます。



BABA Taiki

薬学部HP



高齢化に対応した知識と技術 親しみやすい人間性を備えた 理想の歯科医師を目指す

家族や周囲への感謝の気持ちから、歯科医師として恩返しすることを決意。しかし入学当初の勉強は手探り状態!



入学時の私 /

歯学部 卒業 美馬康太郎さん

歯学部HP



MIMA Koutarou

将来は歯科医師を目指す美馬康太郎さん。もともとご実家が歯科医院を営んでいることもあり、小さい頃から身近な職業でした。

「大学選んで将来のことを考え始めた時期に、あらためて父が仕事をする姿を見ました。たくさんの方から『ありがとう』と感謝されているのを目の当たりにして、自分も人のために働きたいという気持ちが強くなり、歯科医師という仕事を目指すようになりました」。

実際の講義内容はいかがでしたか。「口腔内のことはもちろん、体の構造なども含めて予想以上に勉強する分野が幅広く、入学当初は何をどう学べばいいのか分からない状態でした。その解決の糸口となったのは、友人や先生方の存在です。どんな勉強方法が効率的なのか相談しながら学んでいきました。また、1年次から歯科病院を見学する機会にも恵まれました。僕は徳島出身ですが、長崎の患者さんやお医者さんは穏やかで優しい印象です。以前から、誰とでも親しくなれる歯医者さんが理想像だったので、目標へのイメージがどんどん具体化していきました」。

歯科医師という夢に向かって一直線ですね。

「それが実は、3年次で勉強に慣れていつの間にか気持ちが緩んでしまい、大事な講義の単位を落としてしまったんです。卒業まであと3年という期間に油断して足をすくわれたというか。それがきっかけで気持ちを入れ直し、集中

5年次で受ける歯学共用試験のCBTとOSCEでは、1年次からの知識の積み重ねが必要。コツコツ勉強しておきましょう。



して勉強に打ち込みました。そして5年次のCBT・OSCE(全国共通の歯学共用試験)も無事にクリアし、実習に参加できました。今年の春からは長崎大学病院で研修医として新しいスタートを切ります」。

将来はご実家の歯科医院を継ぐ予定ですか。

「生まれ育った場所で、親孝行したい気持ちはありますが、まだまだ知識不足です。それに学部で学ぶ中で高齢者の口腔ケアへのニーズの高まりを感

じることもあり、今後は大学院も視野に入れながら、さらなる専門知識の修得を目指していきたいです」。



実習の一環として、与論島の歯科医院を訪問。新型コロナウイルスの影響で実習内容も制限されましたが、貴重な現場経験を積むことができました。

周りに流されることなく 大学での学びや体験を通して 自分に合った研究分野を選択

入学当時は進路に迷いもありましたが、学びながらじっくり考えることで方向性を決めることができました！



＼入学時の私／

工学部 卒業 濱本祐夏さん

工 学部の化学・物質工学コースで4年間学び、この春から大学院でさらに研究を深める予定の濱本祐夏さん。どのようにして自分に合った研究分野を決めていったのでしょうか。「高校時代から化学が得意で、コースはすんなりと選べました。そこから具体的にどの分野を研究するのか決めかねて、いろいろな講義を受けて考えることにしました。ただ、入学時から方向性が定まった学生も多く、1、2年次

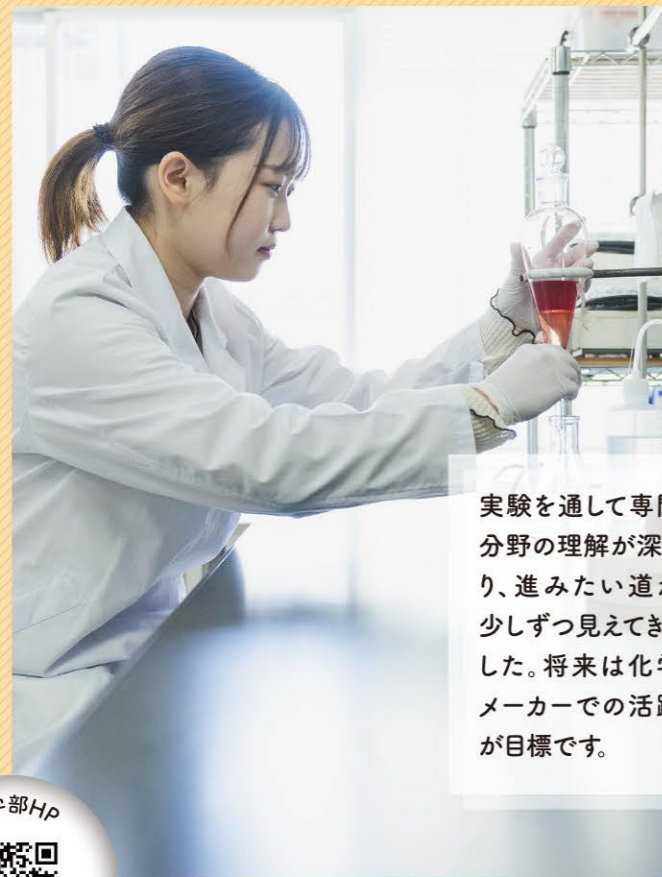
は焦りを感じることもありました」。決め手になった出来事はありますか。「3年次からの学生実験です。4年次で研究室を決める前に、各分野の研究室の実験を一通り体験する機会があり、研究内容の具体的なイメージがつかめました。またティーチングアシスタントとして参加している先輩方から、研究室の雰囲気や実験の体験談、就職活動について聞くことができ、自分の進路の判断材料となりました。私は有機生命化学研究室に入り、薬理活性

を持つ化合物の合成についての研究に取り組んでいます」。「はい。これまでの座学とは異なる実験はとても新鮮でワクワクしました。その一方で、思った以上にハードな面も感じて。器具の操作は繊細で難しく、なおかつミリの精度を求められます。最初のうちは気を張り過ぎてどっと疲れていましたが、研究室の先生方の手厚いサポートもあり、学生同士でも協力して研究を進めていきました」。

さまざまな人との関わりも大学ならではの経験ですね。

「そうした部分では、工学祭実行委員会での活動は大きな経験でした。学園祭で工学分野にちなんだブースを出展するサークルで、異なるコースの学生と知り合う機会となりました。2年次では中心になって出展の企画や準備を進め、その中でコミュニケーション力が身に付きました」。

今後の目標はありますか。「まずは大学院でしっかり研究に取り組んで、卒業後は化粧品などの化学メーカーに就職したいと思います」。



実験を通して専門分野の理解が深まり、進みたい道が少しずつ見えてきました。将来は化学メーカーでの活躍が目標です。



学園祭では、工学部らしい工夫を凝らした出展を企画。普段は接する機会が少ないコースの学生と一緒に企画することが、新たな視点を得ることにつながりました。

工学部HP



HAMAMOTO Yuka

将来が見えない葛藤の日々 社会人の生の声に触れて なりたいたい自分を見つけた

就職について悩んでいた日々。メンターとして相談に乗ってくれた先輩にも、ずいぶん支えてもらいました。



＼入学時の私／

経済学部 卒業 田中真能さん

TANAKA Mano

経済学部HP



長 崎県庁に入庁が決まりすがすがしい表情の田中真能さん。当初考えていた卒業後の進路は、民間企業だったそうです。「自分は何をしたいのだろう」と自問する日々の中、専門知識を生かし社会が抱える課題を解決できる人材を育成する「ビジネス実践力育成プログラム」や、ゼミ活動、企業インターンシップを経験。「解決の糸口を見つけるヒントになった」と振り返ります。印象的だった取り組みとは？

「たくさんあります。例えば、グループワーク自体はゼミの中で頻繁に行っていたものの、長崎市の総合計画に関するオンラインワークショップは、市役所の職員の皆さんと共に実践に近い形式で行う初めての体験でした。私はテーブルファシリテーターでもあったので、しっかり事前準備を整えて臨みました。グループにはベテランから若手まで、部署の垣根を越えて幅広い層の方々がいらっしゃったのですが、役職にとらわれず意見や指摘が交わされ、この街を良くしたいという皆さんの熱い思いに心を動かされました」。

インターンシップにも積極的に参加したそうですね。

「はい。民間企業だけで10社くらいでしょうか。それでもやりたいことを見つけられず。国家公務員のインターンシップに参加した時、その場にいた学生の発言力や知識量の豊富さに衝撃を受けて、公務員について調べるようになりました。企業研究をしていた時よ

ディスカッションや企業体験など、大学で得た学びの実践はこれからは本番。故郷の力になれる社会人を目指します。



り没頭でき、公務員になった自分のイメージを広げることができたんです」。

その後、地方公務員と国家公務員の採用試験を受験し、いずれも合格した田中さん。地方公務員を選んだのはなぜでしょう。「働くなら地元がいいと思っていたので、国家公務員になったとしても先々は長崎に帰ってくるつもりでした。それならずっとこの街にしよう、故郷を元気にするために頑張ろうと決めました。若者の定着率促進など興味深い分野はありますが、それだけに

執着せず幅広く取り組みたいです」。大学の学びを生かすのはもちろん、持ち前の笑顔と行動力で未来を切り開いてくれる日を待っています。



全学バレー部の試合で各地へ。2年次の春休みにはカナダ短期留学も経験。「意識が変わるので海外経験はお勧めです」。

沸き起こる好奇心を信じて 何でもチャレンジしながら 高校生を指導する道へ

さまざまな地域から学生が集まる水産学部。それぞれ異なる得意分野や目標があり、話を聞くのがとても楽しいです！



＼入学時の私／

水産学部 卒業 生田結衣さん

水

産学部をこの春卒業した生田結衣さんは、後期入試で長崎大学に入学。広島県出身で、もともとは別の大学を目指していました。

「同じ生物系の専門科目を学べる大学でしたが、最初は落ちたことがショックでした。でも振り返ると、長崎での4年間が本当に充実していて、今は来て良かったと心の底から思います。水産学部のカリキュラムは実験と乗船実習が特徴で、実際に海で生物採取を行って

スケッチや解剖をしたり、船での生活をしたり、初めてのことで楽しくしながら学んでいきました。2年次ではもともと興味があった海洋生物学コースに進み、その後の卒業研究では、アミハギの遺伝子および形態の違いについて調べました。

初めてのことで、自分から積極的に参加するタイプだったんですね。

「せっかく長崎に来たので、自分の好奇心に従ってどんどん行動しようと思ったんです。そんな気持ちで入部し

た水産学部の女子カッター部ですが、日々の練習からとても大変でした。早朝5時から船をこいだり、大会前は週6日練習したり。その分メンタル面は強くなりましたし、全国大会では準優勝という成績を残すことができ、終わり良ければすべて良しというか(笑)、きつい練習もすべて思い出になりました。また、一緒に部活動に打ち込んだ仲間との絆はかけがえないものです。

卒業後の進路は、高校の理科教員とのこと。どんな理由なのでしょう。

「教育以外の専門知識を身に付けて教員になるという進路にも興味があり、迷っていた時期もありました。気持ちを後押ししてくれたのは、アルバイト先で出会った高校教員の方です。いつも楽しそうに学校の話がされていて、教員免許取得を目指していた私に「楽しいことも苦しいことも、自分の経験を子どもたちに伝えられるのは恵まれた仕事だよ」とアドバイスしてくれました。就職先は広島県の高校ですが、すてきな経験ができた長崎県で働いてみたい気持ちもあるくらい、思い入れのある場所になりました。」

受験や何かに失敗しても、プラスにしていく気持ちが大切です。私もなるようになって思っているいろいろなことに挑戦しました。



IKUTA Yui



水産学部ならではの活動内容に興味を感じて入部した女子カッター部。生田さんはキャプテンを務め、仲間と切磋琢磨して厳しい練習に励みました。

水産学部HP



文系だけでなく理系も学べる 文理融合スタイル 「やりたいこと」をさらに深掘り

中学生の頃からサンゴ礁の白化現象や海辺のごみ拾い活動に興味があり、環境問題を仕事にできればと考えました。



＼入学時の私／

環境科学部 卒業 島尻香奈さん

SHIMAJIRI Kana

環境科学部HP



沖

縄出身の島尻香奈さんは、環境問題に関心があり、一方でまちづくりや地域政策にも興味があったことから、それらを学べる大学を探すうち、長崎大学の環境科学部に会いました。

「特に文理融合に魅かれました。私は文系入試から入ったのですが、生物多様性や水環境の授業など理系分野の事柄を学ぶことができたのが良かったです。環境問題やまちづくりは、理系的なアプローチも大切ですから。」

もう一つ、環境科学部といえば、フィールドワークが大きな特徴です。

「雲仙のミヤマキリシマの花の保全活動や、東彼杵町のグリーンティーズムというお茶を用いた観光開発に関わることができたのは印象的でした。特に東彼杵町は、空き家活用などで若い世代がとても積極的。「次はこういうことをやろう」と前向きな空気が自然と醸成されていることを目の当たりにしました。インターンでは、宮城県の南三陸町で1か月間水産加工に関わりました。見栄えが悪く出荷できないウニが廃棄されるのを見て、パスタやフォンデュに活用できるオリジナルのウニソースを考案したところ、「若いあなたらしい発想」と企業の方に喜ばれました。しかし、加工段階で保存料を入れなければならず、無添加にこだわる企業はほとんど踏み切れませんでした。発想だけでなく、技術的にクリアする課題があることも勉強になりました。」

ところで、島尻さんは北九州市役所



環境未来都市として新しい事業にも取り組む北九州市で、卒論でも取り組んだ海産物の6次産業化に貢献してみたいですね。

に内定しています。自身の就職活動を終えると、今度は後輩のために公務員試験のレクチャーを買って出たそうですね。

「環境科学部は、公益性の高い仕事に就きたい人や、公共事業に携わりたいという思いを持つ学生が多いので、公務員以外にも一般社団法人や独立行政法人といった専門性の高い組織にアプローチする方法などを伝えました。自分が経験したことを生かしてほしくて。就活の幅が広がったという声をも

らって、うれしかったです。」

もうすでに、公益性を大切にしている資質が身に付いている島尻さんなのでした。



インターンシップで訪れた南三陸町で漁業を体験している島尻さん。豊かな海産資源を生かすべく、奮闘しました。